

『一生懸命』幻の新座市議会報告第57弾!



2010年6月30日発行

反対1名!

この6月議会では、補正予算にただ一人反対しました。理由は13億5000万もかかる「ふるさと新座館」の建設に疑問を感じたからです。一般質問でも財政問題を取り上げたのですが、新座市の財政難は続いています。市長はこの5年間で「市の借金を104億減らしました!」と胸を張っていましたが、それは県の指導を受けて土地開発公社健全化計画を行った為で、市が自主的に借金を減らした訳ではありません。その証拠に土地開発公社健全化計画の終了と同時に大型箱物の建設が決まったという訳です。確かに、野火止公民館の機能を移設したり、市民念願の小ホールがあったり、野菜の直売所があったりと「多機能施設」であることは確かなのですが、今の新座市には大きな財政負担であることは確かなことですし、多機能が故にそれぞれの機能に問題があることも浮かび上がってきました。保育園の待機児童が250名近い今、保育園を造るのならともかく、そんな箱物を造る余裕はないはずです。

借地問題

新座市には現在29万平米という借地があります。その内の約4万平米が学校用地です。相続が発生しても、学校用地は買い戻すしかありません。その費用は約50億。近い将来、それだけのお金が必要となるのです。学校以外にも公民館やコモン用地などや児童公園などにも借地があります。ただでさえ公園が少ないと言われているのに、買い戻すお金がなければ民間に売られ、公園は更に減っていきます。新座市にはそういう問題もあるのです。13億5000万かけて造る「ふるさと新座館」と市民要望の強い集会所。1棟建設するのに4000万円かかるといわれる集会所を30棟新築で建ててもおつりがくる計算になります。そういうことを考え、僕は補正予算に反対しました。



たかやんのプロフィール

本名たかむらともや。東京都新宿区生まれ。新宿区立西戸山中学、都立石神井高校を経て北海道大学へ。大学3年の時、突然教師になる決意をする。77年から教師として五中・六中・二中で21年間を過ごし98年退職。04年初当選。どの会派にも属せず一人会派「語る会」で、しがらみのない発言をし続けている。新堀・石神「たかやん塾」塾長。「黒目川川づくり懇談会」代表。石神3丁目在住。趣味はテニス・サッカー・料理・読書・カメラ・川掃除。新座五中・六中の男女硬式テニス部を率いて、県大会は50回以上、関東大会5回、全国大会2回優勝。同時に学級通信「一生懸命」を20年間発行し続ける。議員日記は6年と4ヶ月毎日更新。アクセスは11万回を超える。小中高生の生の声を聞きながら、日々教育を考え「観光新座ではなく、教育新座」を訴えている。ご感想・ご意見・ご提案をお待ちしています。たかやん

たかやんの連絡先

自宅 042-456-8869

携帯 090-6497-5737

mail: takayanchan@jcom.home.ne.jp

〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

道路問題



この写真は保谷・朝霞線や放射7号線に関する質問をしている私です。小さなパネルを使って、保谷・朝霞線の必要性の低さを示しました。保谷・朝霞線に関しては、この6月議会では色々なことが明らかにになりました。

- 1.現在、放射7号が北園から調布・保谷線まで物凄い勢いで建設されている。(用地買収済み。練馬区73%・西東京市96%)
- 2.埼玉県は保谷・朝霞線と放射7号の両方を同時に建設はできない。
- 3.埼玉県は住民が反対運動をしている道路は建設に着手できない。
- 4.埼玉県は住民への説明会はやらない。(やるなら市が単独でどうぞ！)→8月に市単独の説明会。
- 5.埼玉県としては27Mしか考えていない。新座市が20Mでやるというのなら、その根拠を示せ。
- 6.埼玉県は産業道路よりも先は造らない。
- 7.既に放射7号の所沢部分は完成している。

＊放射7号とは北園から、所沢まで抜ける都市計画道路で、保谷・ひばりヶ丘・東久留米・清瀬・所沢と西武線に沿って走る道路です。この道路が仮に産業道路まで行っただとしても、T字路で終わることを考えると、利便性・必要性は放射7号の方がかなり高いと思われます。県の借金は3.5兆円を越えています。今、県が2本の道路を造りたくないのは当たり前です。そして、この放射7号が完成すると、都県境に来る車の数はかなり減るのではないかと予想されるのです。調布・保谷線の受け皿は放射7号で十分ではないでしょうか。国も県も市も借金だらけ。何かを止めなくてはいけないのです。

安全問題

毎朝、八石小学校の東門に立つようになって数ヶ月が経ちました。子どもたちの顔も覚え、毎朝が楽しみになってきました。そこに立つようになったのは、「東門の前の道路が見通しが悪く危険なのに、人が誰も立っていない。何とかありませんか。」と、あるお母さんから言われたからです。実際に立ってみると、かなりのスピードで車は通ります。道路を横断する通学班は3つ。横断歩道もなければ、交通指導員もいないので、全て先頭の班長の判断に任されていることが分かりました。集団登校の危険なところは、下級生は上級生に判断を任せ、下を向いたままついて行ってしまうところです。列の長い班ほど危険です。4月から1年生の息子の集団登校を見守ってきて何度か「危ない！」と思うことがありました。実際に新座小学校の悲劇の直ぐ後に、同じようなことが起きています。ギリギリのところで助かったのですが、やはり普段交通指導員さんがいる交差点での出来事でした。(その日はお休みだったのです。)交通指導員さんがお休みのときの対応も含め、もう一度子どもたちの安全について、考えてみるべきだ！と、議会でも質問しました。



写真は通学路の歩道を完全に覆うように置かれたトラックです。先頭の班長が道路にはみ出せば、残りの子達はみんな県道の車道にはみ出て歩いてしまいます。この時は、僕と校長先生でトラックの後ろに回るように誘導し、運転手にも「このような駐車の仕事は危険で困る」と言いました。その後、この会社は強く要望したところ、子どもたちに安全な形での荷物の積み下ろしになりました。